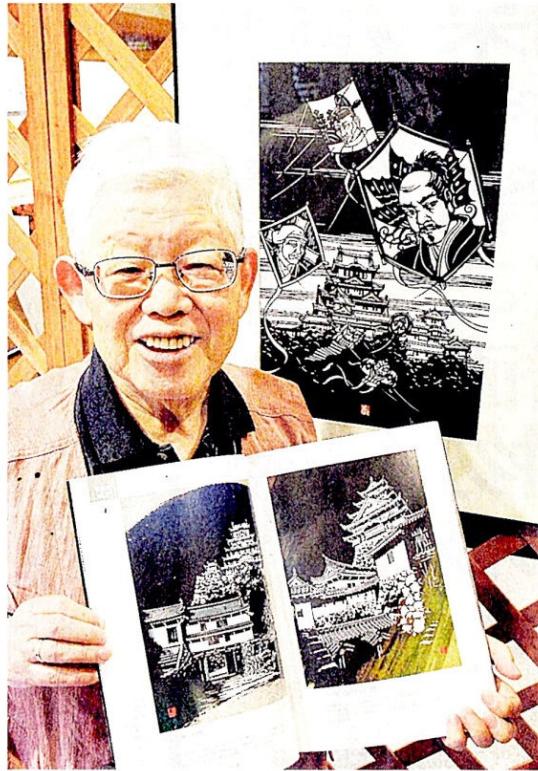


姫路市在住の剪画家小坂通泰さん(77)の個展「白鷺の城ふたたび」が1日、同市総社本町の播磨国総社西御門で始まった。世界文化遺産・国宝姫路城の「平成の大修理」完了を記念した

総 播 磨 国 社

企画で、5日からは近くのイーグレひめじで同時開催。城や播磨国風土記などを題材に、白と黒のコントラストが織り成す剪画の美を通じ、播磨路の魅力を伝える。
(仲井雅史)

姫路城の大修理完了記念 小坂さんが個展



出版した画集を手にする小坂通泰さん＝
播磨国総社

小坂さんは1967年、姫路市内にデザイン事務所を開設。観光ポスターなどを手掛けながら、姫路城など播磨を題材にして創作に取り組んできた。

剪画は黒い紙をカッターナイフで切り抜き、下から白い紙を当てモノクロ絵画のように表現する。彩色することもある。「やり直しがきかない緊張感と一氣に仕上げる勢い。きれいな

エッジ(縁)が魅力」と小坂さん。総社会場は、播磨国風土記の神話や城を題材にした作品、ポスターなど約40点を展示。イーグレ会場では、城の近作や総合文化誌「パンカル」の連載「季節の扉」の原画など約60点を並べる。

6日前10時から県立大特任教授の中元孝迪さんが「よみがえった姫路城」その美しさの秘密と題して記念講演する。

いずれも無料。小坂さんの近作を収めた画集も販売中。3240円。小坂さん 079・281・8629

城や播磨風土記テーマ

剪画で播磨路の魅力

と黒を基調とする剪画とつたり合う。これや、どうもがかった」幼いころから城に親し、今も足しげく取材に通う。「いつも発見、感動、謎がある。イメージがどんどんわき、壁にぶつかり、越えようとする。いい画題に出合えて幸せ」

総社会場は15日まで。イーグレ会場は5～10日で、

任教授の中元孝迪さんが「よみがえった姫路城」その美しさの秘密と題して記念講演する。

いずれも無料。小坂さんの近作を収めた画集も販売中。3240円。小坂さん 079・281・8629